

八王子市における廃棄主体の意識改革とごみ削減案 市の持続的な発展を目指して

青木穩, 目黒葵, 大川幸一, 相馬希恵, 千保木蘭
指導教員 前田幸男

創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミナール

私たちは八王子市の一つの強みである「ごみ排出量の少なさ」に着目したが、実際に八王子市で暮らし、またごみ減量に関する取り組みについて調査する中で、それらの取り組みには未だ発展の可能性が秘められていると感じた。これは、他自治体をロールモデルとした施策を行うことで市民や事業者のごみ分別の意識を高めることを目的とし、さらにより効率的な市政の運営や魅力的なまちづくりに貢献することを期待した提案である。

キーワード：ごみ減量, 環境, プラスチック削減, 循環型社会, 市の持続的な発展

緒言

私たちはゼミナールの諸活動を通し環境問題を研究・考察する中で、特にごみ問題について着目する必要性を感じるようになった。そこで八王子のごみに対する取り組みを調べたところ、減量については全国 1 位の実績を誇っている一方で、未だ改善の余地のある点も見えてきた。それらへの対策を実施することによって八王子市のごみ排出量の少なさという強みを伸ばすことができ、市の今後の持続的な発展に寄与しうると考えた。

考察

まず、八王子市の現状を振り返ると平成 17 年度に他の自治体に大きな差をつけて、ごみ排出量の少ない自治体ランキング(人口 50 万人以上の都市)で全国 1 位に輝き、その後平成 27 年度に再び同ランキングで 1 位を獲得した。市の実績を振り返ると平成 17 年度においてはごみ袋の有料化という取り組みが全国 1 位の要因として考えられる一方で、平成 27 年度は、食品ロス削減プロジェクトなどを実施していたものの、これらの取り組みがごみの削減に対して直接的な効果があったとは見受けられないように思えた。

また、ごみを排出している主体である家庭や事業者のごみ削減に対する取り組みを振り返ってみても未だに課題が残るように感じられた。具体的に例を挙げると、家庭で出たごみに関しては、それらを分別せずに近くのコンビニエンスストアで

廃棄していたり、一般のビニール袋に入れたごみを市指定のゴミ袋の中に入れて廃棄するなど、ごみ削減に対する意識が徹底されていない事例が多く見受けられる。事業廃棄物においては一般家庭と違い、ごみ袋が有料化されていなかったり、店の従業員や顧客の意識の違いによって分別が徹底されるか否かの差異が生まれているといった点がある。

提案

こうした現状を背景として踏まえて調査を進めていく中で、他の自治体で行われているごみ削減への取り組みが八王子市でも実現可能かつ効果的なのではないかと考えた。他の自治体で行われているそれらの取り組みの例は以下のとおりである。

- ・事業廃棄物のゴミ袋有料化（広島市）
- ・分別されていないごみ袋の非回収（松山市）
- ・ごみ袋の透明化(大阪市:次ページ図①, ②参照)
- ・ごみ処理に関する Web ページの改善（大阪市:次ページ図①, ②参照)

図①



図②



(出典；大阪市環境局ホームページより引用)

上記の例の一つである大阪市ではごみ袋の透明化を実施しており、事業や各家庭、各個人がごみを廃棄するうえで分別に対しての意識改革を促進するための取り組みがなされている。

他の自治体でもこうした取り組みによってごみの排出量が削減されているのは事実であり、八王子市においても前述の平成16年度におけるごみ袋の有料化はその代表例であろう。実際に翌年の平成17年度にごみ排出量の少ない自治体ランキング

において1位を獲得したことからもその効果は見られる。しかし、以降ごみの排出量の推移が緩やかな減少傾向であったのはそうした市としての取り組みが明確になされてこなかったからではないであろうか。ごみ削減を強みとして持つ市として、再度実現可能な取り組みに着手していくことが八王子市の価値の向上や持続的な発展につながると思われる。

結論

以上みてきたように、八王子市の環境に対する取り組みとしてごみの削減が全国的にも評価されているが、一方で資源の分別においてまだ改善の余地があるのも事実である。ごみの削減という目標を暫定的なものにするのではなく、より持続的かつ実質的なものとすることによって市の観光資源としての付加価値の向上やごみの処理にかかるコストの見直しによる無駄の削減といった取り組みが今後の八王子市に求められるものなのではないであろうか。そのためにはまず他の自治体においてどのような取り組みがなされているのか、また、それらの活動が八王子市でも実現可能なものであり、市のさらなる発展を望めるものなのではないのであろうか、といった今までの在り方を再度見直していこうとする姿勢が必要である。